

り願ひ〔C〕

## 一札之事

一 貴寺様御支配鎮守湯前権現之「御手洗、為ニ諸人療養、同村氏子三右衛門」頼ニ而、水呂風ニ仕候而為レ致ニ入湯申度、若「遠方療治として入湯之人来り候」節者、一二夜之宿仕候而相帰申度、此段「頼上候

一 御手洗汲取義御座候間、鎮守江之冥加「錢として、壹ケ年ニ鳥目三百文宛差上」可レ申候、他所湯無心之人御座候ハ、湯壺駄「ニ付鳥目貳百文、少々義成共相応之冥加」錢申請、任望「指出シ可レ申候、右之冥加」料帳面相記、其年切貴寺様へ差上可レ申候

一 湯小屋にて如何様之儀出来候共、貴寺様へ「御苦勞掛申間敷候、御手洗汲採水風呂」仕候得者、右之通頼上候、依レ之書付「印形、為ニ後日ニ仍而如レ件

明和七年寅二月

氏子湯本

三右衛門印

親類

弥右衛門印

別当

胎養寺様